

【JCC水産業クラウドWG 2012 第二回全体会議 議事録】

■日時 2012/10/30 (火) 14:00-15:30 IBM箱崎本社

■参加者 (順不同・敬称略)

社団法人海洋水産システム協会 研究開発部トレーサビリティ研究会

築地魚河岸三代目 千秋

東京海洋大学 産学・地域連携推進機構

三重大学 大学院生物資源学研究科

有限会社鮮魚の達人

岩手大学 地域連携推進センター

NPO法人埼玉ITコーディネータ

株式会社アットテーブル

SinfoniaCloudテクノロジーズ株式会社

大日本印刷株式会社 研究開発・事業化推進本部

大日本印刷株式会社 C&I事業部IT開発本部

ネットフォース株式会社

ミツイワ株式会社 新規プロジェクト本部ネットビジネス営業部

総務省 情報通信国際戦略局情報通信政策課

総務省 情報通信国際戦略局 情報通信政策課

総務省 情報流通行政局情報流通振興課

経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課

経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課

大臣官房 統計部 管理課 情報室 情報化推進班

農林水産省食料産業局産業連携課

岩手大学 東京オフィス

ヤマト運輸株式会社 法人営業部

ヤマトグローバルエクスプレス株式会社 営業戦略部

ヤマトグローバルエクスプレス株式会社 営業戦略部

岩手大学地域連携推進センター共同研究員

日本アイ・ビーエム(株)

■アジェンダ

	時間(目安)	テーマ	所要時間(分)	スピーカー
1	14:00-14:05	オープニング	5	日本アイ・ビー・エム(株) 執行役員スマーター・シティ事業担当 吉崎 敏文
2	14:05-14:20	活動報告-1 JCC水産業クラウドWG『活動のご報告』	15	日本アイ・ビー・エム(株) SC事業 第二社会インフラ事業開発部長 加茂 義哉
3	14:20-14:40	活動報告-2 岩手大学・久慈市 水産車座研究会の取組	20	岩手大学地域連携推進センター教授 小野寺 純治様 築地魚河岸三代目 千秋 店主 小川 貢一様
4	14:40-14:55	活動報告-3 「コンパクト・スマート漁港」& 「水産ダイレクト流通」の取組み	15	ミツイワ(株) 新規プロジェクト本部ネットビジネス営業部部长 本多 隆史様
5	14:55-15:15	オープンデータの新たな活用に向けて	20	日本アイ・ビー・エム(株) SC事業 テクニカル・ソリューション 高城 勝信
	15:15-15:35	ご活動フィードバック並びに意見交換	20	参加メンバー
	15:35-15:45	ラップアップ	10	日本アイ・ビー・エム(株) SC事業 第二社会インフラ事業開発部長 加茂 義哉
	15:45-15:50	クロージング	5	日本アイ・ビー・エム(株) GBS・流・公・通SVC. スマーターコマース営業 部長 久保田 和孝

■ 実施概要

- 1) オープニングご挨拶 (IBM吉崎)
- 2) 活動報告1 JCC水産業クラウドWG『活動のご報告』(IBM加茂)
 - 「①JCC水産業クラウドWG_活動のご報告.pdf」資料を使い活動内容を報告した。
- 3) 活動報告2 岩手大学・久慈市水産車座研究会の取組(岩手大学 小野寺先生、千秋 小川様)
 - 「②岩手大学小野寺先生_水産クラウドWG資料.pdf」資料を使い活動内容を報告した。
- 4) 活動報告3 『コンパクト・スマート漁港』&『水産ダイレクト流通』の取組み(ミツイワ 本多様)
 - 配布資料を使い活動内容を報告した。
- 5) オープンデータの新たな活用に向けて(IBM高城)
 - 「④IBM_オープンデータの新たな活用に向けて.pdf」資料を使い説明を行った。
- 6) ご活動フィードバック並びに意見交換(参加メンバー)
 - ヤマト運輸
 - 「モノの価値」は場所や「運送スピード」に依存すると理解
 - ヤマトは、場所をつなぎ、運送スピードを高めることで「付加価値創出」に貢献したい
 - ヤマトグローバルエクスプレス
 - ヤマトも久慈の実証実験で、「付加価値創出」に貢献したい
 - ヤマト運輸として協力できることがあればお声がけいただきたい。
 - ヤマトグローバルエクスプレス

- 関東および関西の飲食店様向けに「朝どれ便」(産地で朝とれたものを夕方までに届ける宅急便)を行っている。
- 当日輸送、高速輸送関連で何かお手伝いできることがあれば、お声がけいただきたい。
- 大日本印刷
 - 印刷会社なので、販促の分野等でのビジネスを考えてWGに参加している
 - 消費者のニーズに沿った水産物の売り方を考えたい。包装品・パッケージ等も提供しているため、魚の国のしあわせ「Fast Fish」のような適用分野もあると考えている。
- 東京海洋大学
 - 2012年11月2日(金)東京海洋大学 大学祭にて開催予定の「第7回 全国水産都市フェア」のご紹介。
- 岩手大学
 - 岩手の漁港は大規模なものではなく、小規模な漁港が多い。新しくWGに加わったヤマト運輸様には新しい流通を、大日本印刷様には新しいパッケージといった取り組みを期待する。新しいビジネス創出に協力して欲しい。
- 鮮魚の達人
 - ミツイワ様のダイレクト流通のような取り組みは各所で行われているが、大きく成功した例を見ない。
 - 農業と異なり、水産業では「消費者の要望を生産者に伝え、生産者がそれに応える」というモデルは機能しないのではないか
 - 水産業は消費者の意見を聞いて水産物を調達するモデルではないと思っている。その最たるものは中央市場であり、毎朝水揚げされたものに仲買がせりをして値段を決めている。ここに「目利き」が少なくなったため、魚の価格が上がらない。市場での需要が減っている中、それを補う方策を考えることが必要なのだろう。
 - 是非、和歌山県知事との会談「水産業の振興について」を見ていただきたい。
http://www.pref.wakayama.lg.jp/nettv/p_ch4/ch4_movie/02_chiji_to_kataru/2012/12_20120923.html
- 千秋
 - 自分たちのようなユーザのニーズが産地(例:久慈市漁協)に反映されていない。
 - 産地は「自分勝手」に加工作業をしており、ユーザのニーズに応える形となっていない
 - 仲買にも山根さんのような魚の専門家がいなくなっている。そもそもそれが問題である。
- IBM
 - パーチャル山根を作るという話もあり、課題として認識してはいるが道半ばである。
- NPO法人埼玉ITコーディネータ
 - 魚が食べられない人が増えているのは、知識不足が原因ではないか。お魚検定を作って、魚の名前を知ってもらうところからはじめるといったアイデアもある。検定サイトをクラウドでやってもよいかもしれない。

7) まとめ(IBM加茂)

- まだ最適解は無いが、「Lessons Learned」を共有しながら水産業のサプライチェーン全体を見て背骨の通った生産～消費の流れをうまくまとめられたらよい。
- 目利きができる人がいなくなっているという話もあり、それを補うためにどうしたらよいかという課題がある。ITができるのは、どういうソフトやコンテンツをのせたらよいかという話だが、本日いくつかの取り組みが紹介された。

- 水産ダイレクト流通の取り組み(ミツイワ 本多様)
- 久慈市水産車座研究会の取り組み(岩手大学 小野寺先生)
- 宮城県石巻市雄勝町オーガッツの取り組み(三重大学 勝川先生)
- JCC水産業クラウドWGに関連する新しいICT話題として「オープンデータ」の話をさせていただいた。これはよりオープンな世界で情報流通するしくみを通した水産物のブランド化を期待してのことである。
- 今年になり具体的な活動の事例が聞けるようになった。次回のWGでは、オープン、ICT,戦略見据えながらのより具体的な取り組みとそれを通した新たな気づきを期待している。

8) クロージング(IBM久保田)

- ご意見等ございましたら、事務局までご連絡ください。
- 次回のWGは来年の開催を予定している。